

白山市発達相談センターだより

第 4 号
H28年11月
発行

白山市発達相談センターとは…

白山市では、発達障害などで乳幼児期や学齢期のお子さんの発達について悩んでいる保護者の方をはじめ、就労や人間関係などのつまずきを抱えている方の相談に応じ、保健・教育・福祉・就労・医療関係部署と連携をとりながら、発達障害の早期発見と継続かつ一貫した支援を行っています。

それぞれのライフステージ（年齢）に合った支援をするための体制整備や取り組みの充実を図り、一人一人が安心して生活できることを願いながら進めています。



【ワンポイントアドバイス】 ～ 一人ひとりの力を伸ばすために ～

突然ですが「発達」って何でしょう？

広辞苑には「発育して完全な形態に近づくこと、進歩して完全な段階にむかうこと」とあります。「完全に向かう」ことが発達であると考え、今の姿は不完全であり、常に完全にむかって進歩しなければならないような観念にかられます。しかし英語の development (発達) は意味合いが全く違います。語源は velop (包み) という言葉の否定形で「包みを開く」ということであり、「徐々に隠された本質が開示されること」とあります。

発達とは「その人の中にあるものが徐々に開いていくこと」というイメージが私は好きです。球根から根が伸び、芽が出て、葉が成長し、花を咲かせることを連想させます。ただ健やかな発達にはそれにふさわしい生育環境が必要です。蘭には蘭に、たんぽぽにはたんぽぽに適した環境があります。その人その人に合った環境を整えるお手伝いをしながら、一緒に春を待つような相談をしていきたいと思っています。

発達相談センター 臨床心理士



8月～9月



🐟 「幼児期編 気になる子ども達～どう受け止め、どう理解し、どう関わるか～」

講師 日本ポータージ協会 小坂 正栄(こさか まさえ) 氏

内容 気になる子ども達について、タイプ別に事例を交えてお話しいただき、その後、支援の手順としてどのような視点でどのように支援していくのかご講義いただきました。『変えられないのは他人と過去。変えられるのは自分と未来。自分が変わればいつの間にか…良い方向に向いてゆく』



参加者の声（保護者）

☆曖昧ではなく、具体的な声掛けを、ネガティブではなくポジティブに…具体的な事例でお話が聞けて勉強になりました。今後も成功体験を増やすように子と関わっていききたいと思います。

参加者の声（支援者）

☆子どもの困り感に気づき、対応して、笑顔が増えるように過ごしていきたいと思いました。子どもは困り感の中で毎日がんばっているんだと改めて思いました。

特別講演会「発達障害、特に自閉症スペクトラムの子どもの理解と支援～二次障害の予防・気づき・対応～」

講師 大阪医科大学附属病院 金 泰子(きむ やすこ)氏

内容 長年、発達障害のある子どもたちと保護者のことばに耳を傾け、分かりやすく話すことを心がけながら、診療治療にあたってこられた「キム外来」のとおきのこぼれ話と発達障害について沢山の事例を交えてご講演いただきました。併せて、発達障害の啓発展示とカフェを開催しました。それぞれの障害特性や相談先、啓発活動の様子、著名人特集を紹介し、カフェでは、ざっくばらんに話すコーナーを設けました。

参加者の声(支援者)

- ♡「自分の思いを言葉に出して伝えること」「どうすればよかったのかを叱るだけでなく、分かりやすく伝えること」を心がけたい。また、子どものいい所を発見。少しお手伝いして”成功”で終わらせる。チェックリスト(マイナスを見つける)より貯金通帳(良いところを見つけて、貯める。)を大切にすることを学んだ。
- ♡障害がハッキリしている子・ボンヤリしている子に添って話をする時に、「分からないように見えて分かっているかも」「分かっているように見えて、実は分からなくて困っているかも」と期待と疑いをもって接することを少し心に留めたいです。



参加者の声(保護者)

- ♡金先生の愛ある言い方に保護者である私が救われました。子どもたちにも、常に私の愛を伝えていきたい。
- ♡成功体験、経験を増やすことが大事だが、無理をさせない、寄りそうことが大切だと思いました。
- ♡子どもの気持ちをもっと理解できるように、あまり高い望みばかり持たないようにとか、小さな変化に気づけるようになりたいです。
- ♡楽しいエピソードがいっぱいで、あっという間に時間が経ちました。子どもにどのように詳しく話すといいのか、少しわかった気がします。

「聞こえにくい子に対する発達の支援について」

講師 金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 武居 渡(たけい わたる)氏

内容 発達の支援について合理的配慮を踏まえてお話しいただきました。何のために教育を行うのか…自分の人生の終わりに「耳は聞こえなかったけど、自分の人生も悪くなかったな」と思えるように①コミュニケーション(友だちがいる)②学力・日本語力③障害認識(自分の事をよく知ったうえで、自信をもつ)を育てる。④必要な支援を受けるときには、自ら求める必要があるなどの力をつける教育が必要です。

【発表】

当事者(大学生)2名より体験談発表 [Aさん] サポートをしてもらっている分、自分の努力を見せることも大事。自分から進んで行動することを意識して生活している。[Bさん] 大学生活では、自分が聞こえないことを周りの人に知ってもらえると、ノド枯れしてもらったり、筆談してもらったりして、楽しい大学生活を送っている。親の方へ、聞こえる聞こえないにかかわらず、して欲しいことは一緒。子どもの夢を全力で応援してあげてほしい。



参加者の声

- ♡自分に自信を持ち、自己理解をちゃんとできるような子になるよう、親としても自信を持って関わりたい。
- ♡当事者の体験談がとても良かったです。





就学サポート相談会「保護者体験談と放課後の過ごし方」相談会

内容 就学サポート相談会では、小学校就学に心配や不安を抱いている保護者を対象とした相談会を全5回シリーズで開催しています。

今回の内容 ・「通級指導教室」「特別支援学級」「特別支援学校」各々保護者の方からの体験談

・「放課後児童クラブ」と「放課後等デイサービス」の説明

次回は、(仮)「わが子を知ってもらうための送り書を作ろう!」を予定しています。



【発表者】

通級指導教室在籍の保護者

週2時間の通級(通常級は『皆と勉強するところ』、通級は『ゆっくり勉強するところ』)で、通級の先生と話しをするとわが子の特性を理解してくれ、安心しました。また、送り書の資料を自分で作成し、通級と担任の先生にお渡ししました。初めての事が苦手なことから、入学式のリハーサルやプール見学などを、事前に段取りに沿って一緒に確認してもらい、安心して皆と一緒に参加するための個別指導を受けています。また、学校とのやり取りでは、PTAに積極的に関わり、要望ばかり言う母ではなく、いつも手伝ってくれる母として、学校に話をしやすい関係づくりをし、前向きにがんばっている母でありたいと思っています。



特別支援学級在籍の保護者

年末に支援級と決め、それから春までに本人の意識を学校に向けるため、学校の準備を一緒にしてきました。4月に入り、校長先生と支援級の先生と話し合いをし、本人の良さや苦手なこと等を書いた送り書を作って渡しました。支援級では、通常級にはない生活単元があり、先生と作物を植えたり、調理や遠足のおやつを一緒に買いに行ったりとしています。学童にも送り書を渡し、親も参加できる行事にも参加しています。子が笑ってられる環境を夫と相談しながら、皆を巻き込んで少しずつ前に進めたらと思います。



特別支援学校在籍の保護者

何度も何度も学校見学し「わが子の発達をサポートしてもらうための最良の場所はどこか」と考え、わが子が過ごす姿を想像できる学校を選びました。入学後、対応が違うのではと感じた時、本当に必要な配慮なのか、自問自答するためにひと呼吸おいてから伝える様にしていました。皆さんへ:それぞれ与えられた環境は全く違いますが、子どもの成長を願う親の気持ちは一緒。「子どもが伸びるとき…ちょっとだけ背伸びした環境(スモールステップ)」を考え、悩みに悩んで下さい。



参加者の声(保護者)

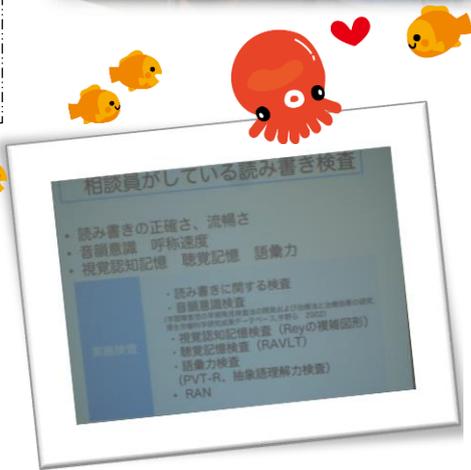
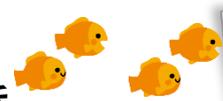
「就学までの大まかな流れや親の気持ち、支援を受けることによる周囲の反応などを体験者の方から具体的に聞くことができたので良かった。

「どんな流れで、どう決めていったのか、よく分かりました。本当にお子様一人一人ですべて違うのだなと思いました。これから、小学校や学童、放課後デイなど、見学などを重ねて色々考えていきたいと思っています。」

「読み書き障害 学習会～検査を中心に～」研修会

講師 石川県いしかわ特別支援学級 嶋 美紀(しま みき)氏

内容 いくつかの検査について検査の実施手順、集計の留意点、集計手順について演習し併せて、学年(年齢)に応じた様々な指導・支援の方法をご講義頂き“子ども達自身が、学びたい”という意欲を育てるような支援について学びました。



10月



QR 「発達につまずきのある子どものコミュニケーション～言語聴覚士の立場から～」

講師 (社)発達協会 湯汲 英史(ゆくみ えいし)氏

内容 発達協会・早稲田大学で言語聴覚士・精神保健福祉士の湯汲英史様を講師にお迎えし、言語・コミュニケーションという視点で、将来の自立に向けて、「社会的承認など幼児期の頃から意識的に教えていくことの必要性」「決定権は大人・子どもの区分けをはっきりとすること」「全てがO(マル)ではないといけない子に対する関わり方」「自分の意思を伝えるための意思形成の支援」など映像を交えてご講演いただきました。その中で、ワーキングメモリーが不足していると認識した上で会話をすること。感情的にならず、落ち着いた話し方や内容を分かりやすく、1語1意で伝え、「OOはダメ」ではなく「OOしなさい」と何をするのか明確に伝えるとよいなどコミュニケーションの留意点やポイントについてお話いただきました。



また、子どもはなかなか感謝のことばを言いませんが「教えてもらったこと」や「家族と一緒にキャッチボールや料理、旅行、外食したこと」などを忘れず、いずれ「親を悲しませたくない」という気持ちが育まれていくそうです。子どもの心の成長を信じて関わっていくことが大切です。

参加者の声(保護者)

- 子どもと向き合い続けて、なんとなく分かってきたことが言語化された思いです。とても分かりやすかったです。VTR 交えての進め方も分かりやすかったです。
- 息子の育ちにおいて、湯汲先生の本をとっても参考にしていましたので、本日お話を聞くことができ感激しました。

参加者の声(支援者)

- 自閉症に関わらず全ての子どもの発達の道筋だと感じました。こどもが理解できているのかを確認しながら、丁寧に対応していきたいと感じました。

【お知らせ】

「基礎編 発達障害(自閉症スペクトラム障害)」

日時 12月16日(金) 13:30~15:00

場所 福祉ふれあいセンター 大会議室 (白山市倉光八丁目 16 番地 1)

講師 武藤 宏平 (むとう こうへい) 先生

(公立松任石川中央病院 精神科・神経科 医師)

お電話かFAXで、①お名前 ②ご連絡先 ③「12月16日の講演会に参加希望」とご連絡ください。医療の立場から発達障害の診断と薬物療法についてお話しいただく予定です。



白山市発達相談センター
 〒924-0865
 石川県白山市倉光八丁目 16 番地 1
 Tel076-276-8819 Fax076-276-6291
 白山市発達相談センターだよりは
 白山市ホームページからダウンロードできます。



はっちゃんから一言
 次回の発行は、平成
 29年2月だよ♪
 またね!